

座談会

新興国の時代に適応するための グローバル人材マネジメントと 日本本社の体制

欧米が世界経済をリードした 20 世紀は終わり、今や新興国なしでは世界経済は語れない時代となった。そこで、誰もが認める国内外グローバル化先進企業の人事・人材育成責任者 4 人が、米国、欧州、中国で現地法人のトップを務めた経験を持つ司会者を中心に、グローバル化の課題とその方向性を徹底討論。



【出席者】（発言順、敬称略）

西井孝明

味の素(株) 執行役員 人事部長

菅原明彦

(株)日立製作所 理事 グローバル人材本部副本部長

日置政克

コマツ 顧問 前常務執行役員

片岡 久

日本アイ・ビー・エム人財ソリューション(株) 代表取締役社長

【司会】

平沢健一

グローバル&チャイナビジネスコンサルタント 代表

グローバル体制の現状

早くから取り組んできたグローバル化

平沢：今日はグローバル企業の最前線を熟知された人事のプロ 4 名に、日本企業のグローバル化における課題と方向性について議論するためにお集まりいただいた。最初に、各社の人事の体制、戦略や課題について簡単にご説明いただきたい。

西井：味の素の海外売上比率は 30% を超え、利益は海外で約 60% になっています。社員数は合計 2 万 8000 人、内訳は国内で 1 万 1000 人、グローバルでは 1 万 7000 人おり、世界 130 カ国でグローバルに事業展開しています。食品という商品の性格上、個々の市場で消費者に受け入れられる必要があります。アクションはローカル中心で行っています。